

## フランス語の副詞的形容詞に関するコーパス間の比較

関 敦彦

### 1. はじめに

現代フランス語では、以下の例に見られるように、形容詞と考える語が動詞句の内部で使用されることがある。<sup>1</sup>本研究ではこの構文を「動詞+形容詞」構文と呼ぶが、この構文に現れる形容詞の一部は接尾辞-mentを伴う副詞などと同様に動詞の様態を示す機能を持っている。本研究では、例文(1)に見られる *fort* や例文(2)に見られる *franc* のような「動詞+形容詞」構文の内部に現れ、かつ動詞の様態を示していると考えられる形容詞を「副詞的形容詞」と呼ぶ。<sup>2</sup>これら副詞的形容詞の大きな特徴の一つとしては、名詞を修飾したり属詞位置で現れるといった形容詞の通常の用法とは異なり、多くの場合で不変化であるということが挙げられる。例文(1)では主語に3人称複数を示す *ils* が用いられているほか、例文(2)では3人称単数女性を示す *elle* が用いられているが、いずれの場合も出現する形容詞は男性単数形であり不変化である。

(1) *Ils*    *parle*            *très*        *fort*.

3PL speak-PRS-3SG very-ADV strong-ADJ

「彼らはとても大きな声で話す。」

(2) *Elle*   *parle*            *franc*.

3SG speak-PRS-3PL frank-ADJ

「彼女は率直に話す。」

ところで、副詞的形容詞の中には例文(1)の *fort* や例文(2)の *franc* のように辞書上で副詞として記述されているものも見られる。しかしながら、本研究で以下に扱うように、辞書上で副詞として記述されていない形容詞も副詞的に用いられうるように思える。また Abeillé et Godard(2004)では統語的制約の差異から、動詞句内に出現する副詞的形容詞は副詞ではなく形容詞として扱うべきと考えている。<sup>3</sup>このことを踏まえ、本研究ではこれら対象とする語を副詞的形容詞と呼び扱いたい。

### 2. 副詞的形容詞の使用と話しことば

副詞的形容詞の使用は口語的であるということがいくつかの先行研究で示唆されている。Noailly(1994)では以下のように示している。

Dans le parler familier,(...), la forme d'adjectif semble bien avoir une interprétation exactement identique à celle de l'adverbe en -ment.

くだけた話し方では、形容詞の形態は接尾辞-ment をともなう副詞とまったく同一の解釈をしようように思われる。

また Hummel et Gazdik(2014)は、副詞的形容詞の使用の起源は古く、一方で接尾辞-ment を伴う副詞の使用は正書法の整備に伴い広まったものであると言及している。また正書法の整備以前から副詞的形容詞の使用が広まっていることや、ロマンス諸語において正書法の整備が比較的遅かったルーマニア語やイタリア語の南部方言などでは副詞的形容詞が専ら使用されることから、副詞的形容詞の使用は口語的な伝統と結びついていると述べている。

このように、先行研究において副詞的形容詞の使用と口語との親和性が言及されているものの、現代のフランス語において副詞的形容詞の使用に関して書きことばと話しことばの間で比較を行った研究はなされていないと考えられる。

### 3. 本研究の目的および研究方法

#### 3.1. 本研究の目的

副詞的形容詞に関する先行研究はあまり多くないと言えるだろう。また、中でもコーパスを基にした分析は筆者の知る限りでは Hummel(2017)や関(2017)を除いては見られないと言える。関(2017)は文学作品を中心とする用例を収録した書きことばのコーパスである Frantext を使用して不変化形容詞の統語的特徴を分析している。さらに Hummel(2017)は、比較的話しことばに文体が近い文章を含むインターネット上での用例を集めたコーパスも用いて、以前の研究でなされた意見や通説を批判的に検討している。しかしながら書きことばと話しことばのコーパスを比較した分析はこれまでなされていないと考えられる。このことを踏まえ、本研究では書きことばと話しことばの複数のコーパスを使用したコーパス駆動型の調査を行い、以下の2点を明らかにしてゆく。

[1] 書きことばよりも話しことばの方が副詞的形容詞の出現頻度は高いのか？

[2] 書きことばコーパスには出現せず話しことばコーパスにのみ出現する副詞的形容詞の語彙は見られるか？

#### 3.2. 使用コーパスおよび検索する語

本研究では、複数のコーパスを使用し、副詞的形容詞を後置しうる動詞をいくつか検索した上で、

副詞的形容詞の出現頻度およびどのような語彙が出現するかを分析してゆく。分析に当たって使用するコーパスは以下の2つである。

表1

コーパス	媒体	備考
CorpAix	話しことば	自由会話を中心に読み上げタスクもふくむ
Le Monde	書きことば	2012年一年間の全記事。

CorpAix は話しことばに関する研究が盛んに行われているエクス=マルセイユ大学で作成された話しことばのコーパスである。一部読み上げのタスクなどのデータも含まれているが、概ねくだけた会話の話しことばが多く、副詞的形容詞の出現頻度は比較的高いのではないかと推測できる。もう一方のコーパス Le Monde は、フランスの日刊紙である Le Monde の一年間の全ての記事の全文を収録したコーパスである。このコーパスは新聞記事を基にしているが、新聞記事はその性質上、インタビューでの会話の引用等を除いて比較的改まった文体が使用されている。そのことからこのコーパスは副詞的形容詞の出現頻度は比較的低いのではないかと推測できる。なお、当初は上の2種類のコーパスの他に Frantext と呼ばれる文学作品を中心に収録したコーパスを加え、3種類のコーパスを用いた分析を行う予定であった。しかしながら、本研究では査読結果等を踏まえ、Frantext を除く上の2種類のコーパスのみを用いて分析を進める。

分析に先立ち、2つのコーパスの用例数を近い用例数に揃えてゆく。今回取り上げる2つのコーパスはそれぞれ収録語数が大きく異なり、そのままの状態で行うと、特に質的な分析を行う際に不都合が生じる可能性があるからだ。各コーパスの収録語数は以下の通りである。

表2

コーパス	収録語数
CorpAix	1,047,012 語
Le Monde	19,338,891 語

本研究では、2つのコーパスのうち収録語数の少ない CorpAix に合わせ Le Monde の語数を 100 万語弱とし、できるだけ均衡なコーパスとなるよう配慮した。Le Monde に関しては 2012 年一年のうち比較的新しい記事で使われる語を分析対象とした。以上の操作の結果、本研究の分析に使用する各コーパスの語数は以下の通りである。

表 3

コーパス	語数
CorpAix	1,047,012 語
Le Monde	857,645 語

以上の 2 つのコーパスを使用して分析を行うが、分析に当たっては以下の 3 つの動詞を検索する。

coûter : 値段が～かかる、～を被らせる、～を失わせる

parler : 話す

payer : ～を支払う

これらの動詞はいずれも関(2017)の分析にて使用したものであり、いずれも動詞の様態を示す副詞的形容詞を後置しうる。また、Abeillé et Mouret(2010)にて取り上げられていた形容詞を後置しうる他動詞に関するデータベース table32NM や table39、Noailly(1994)や Abeillé et Godard(2004)にて取り上げられていた例文を参考にして選ばれたものである。<sup>4</sup>

### 3.3. 分析方法

分析にあたり、まず副詞的形容詞と共に範列を構成しうる動詞の様態を示す語の数を算出する。検索する各動詞においてどのような語が範列を構成するかは以下で見えてゆく。そのうえで3つの動詞に後置される副詞的形容詞の数を算出し、範列を構成しうる語の数に占める副詞的形容詞の数をコーパス間で比較する。

本研究では上に述べたように2つのコーパスを用いた比較を行う。ところで、コーパスと呼ばれるものは非常に莫大な数が存在する実際の使用（母集団）のうちのほんの一部（標本）を取り出したデータベースである。複数のコーパスを比較して分析を行う際には、標本を用いた分析の結果が母集団にも適用されることを確かめる必要があるだろう。そのことから本研究では分析に当たりカイ二乗検定と呼ばれる統計的手法を用いてこのことを確かめてゆく。<sup>5</sup>

## 4. コーパス間の比較

### 4.1. 副詞的形容詞と共に範列を構成する語の出現数

各動詞の動詞句内で様態を示す、副詞的形容詞と共に範列を構成する語は以下の通りである。

表 4

coûter	副詞的形容詞、様態の副詞、金額を示す数詞や名詞、数量を示す疑問副詞 combien など。
parler	副詞的形容詞、様態の副詞、avec N などの様態を示す前置詞句、様態を示す疑問副詞 comment など。
payer	副詞的形容詞、様態の副詞、様態を示す前置詞句、金額を示す数詞、数量を示す疑問副詞 combien など。

各動詞、各コーパスごとに現れる副詞的形容詞と共に範列を構成しうる語の出現数は以下の通りである。

表 5

	CorpAix	Le Monde
coûter	78	71
parler	330	18
payer	49	24

副詞的形容詞と共に範列を構成しうる語の各コーパスごとの 10 万語あたりの調整頻度は以下の通りである。

表 6

	CorpAix	Le Monde
coûter	7.45	8.28
parler	31.52	2.10
payer	4.68	2.80

動詞 coûter および payer に関しては、コーパス間での副詞的形容詞と共に範列を構成しうる語の出現数に大きな差はないと考えてよいだろう。その一方で動詞 parler に関しては Le Monde での出現数が他の 2 つのコーパスと比べ極端に少ないということが言える。このことは、新聞は主に出来事を客観的に描写する媒体であり、話しことばと比べて自己や他者の会話を描写する機会が少ない、つまり、そもそも動詞 parler の出現する頻度が比較的少ないことによるものだと考えられる。また、新聞上で

は同じく発話を表す動詞である annoncer や expliquer 等の動詞の方が parler よりも好まれるように思える。

#### 4.2. 副詞的形容詞の出現数

各動詞、各コーパスごとの、副詞的形容詞と共に範列を構成する語に占める副詞的形容詞の実測値は以下のとおりである。例えば、CorpAix における coûter では、副詞的形容詞と共に範列を構成する語は 78 語出現し、そのうち 28 語が副詞的形容詞によって占められている。

表 7

	CorpAix	Le Monde
coûter	28/78	18/71
parler	18/330	1/18
payer	12/49	7/24

副詞的形容詞/副詞的形容詞と共に範列を構成する語

本研究では、カイ二乗検定を用いてコーパス間の差異を統計的に分析するにあたり、3 つの動詞に後置される副詞的形容詞の数をひとまとめにして、両コーパス間で比較を行う。

副詞的形容詞と共に範列を構成する語 1000 語あたりの副詞的形容詞の調整頻度をコーパスごとに見ると以下の通りである。以下の調整頻度を見る限りでも、話しことばのコーパスよりも書きことばのコーパスである Le Monde の方が、副詞的形容詞の出現頻度が高いことが見て取れる。

表 8

	CorpAix	Le Monde
coûter + parler + payer	126.91	230.09

### 4.3. カイ二乗検定の結果

表 9

CorpAix と Le Monde における各語のカイ二乗検定結果一覧						
個別の語	カイ二乗値	p 値	自由度 (df)	個別の語の頻度の差の有意性判定	頻度が高いコーパス	5 以下の実測値または期待値
coûter parler payer	6.88	0.0087	1	有意水準 1%で有意差あり ( $\chi^2 = 6.88$ , $p = .009$ )	Le Monde	なし

CorpAix と Le Monde の間で副詞的形容詞の出現数をカイ二乗検定した結果、有意差が確認できた。<sup>6</sup>その上で頻度に関しては書きことばのコーパスである Le Monde の方が話しことばのコーパスである CorpAix よりも頻度が高いという結果が得られた。このことから、現代のフランス語の用法においては、少なくとも今回調査した限りでは、話しことばよりも書きことばの方が副詞的形容詞の出現の頻度が高いということが言える。

さらに副詞的形容詞としてどのような語彙が出現したかを概観してゆく。まず動詞 *coûter* に関してはいずれのコーパスでも例文(3)で見られるように *cher* (*coûter cher* : 値段が高い) のみが副詞的形容詞として出現した。また *payer* についても同様に *cher* のみが出現した。今回の調査範囲で比較的副詞的形容詞の語彙が豊かなのは動詞 *parler* である。CorpAix で *bas* (静かに) や *fort* (大声で)、*pareil* (同じように) 等が見られた。また Le Monde に現れた副詞的形容詞は 1 例のみであったが例文(4)で見られるように *bas* が現れている。しかし、Le Monde 上で動詞 *parler* に後置された副詞的形容詞 *bas* が出現する文は、通常、会話等の引用はギメで囲まれることの多い新聞記事でありながら会話が地の文に埋め込まれるなど、多くの新聞記事の文章とは異なる文体が採用されている。そのことから本研究において出現した「*parler bas*」という組み合わせは新聞という媒体では例外的なものであるという可能性に留意したい。

本研究で比較的多く見られた *cher*、*bas* 等の特徴としては、同等の意味では話しことばのみならず書きことばでも接尾辞 *-ment* を伴って出現することが無いもしくは稀であるということが言える。

話しことばにのみ現れる副詞的形容詞については、例文(5)に見られるような *pareil* (同じように) や例文(6)に見られるような形容詞 *sérieux* (真剣に) が挙げられる。

(3) *Le régulateur met en cause d'autres pratiques qui,*  
 ART regulator-SG put-PRS-3sg in cause-SG of other-PL practice-PL REL

elles aussi, ont littéralement coûté cher à Fret SNCF.

3PL also-ADV have-PRS-3PL literally-ADV cost-PTCP expensive-ADJ DAT freight-SG

「調整者は SNCF（フランス国鉄）貨物に文字通り高い負担をかけた他の慣習もやり玉に上げてい  
る。」(Le Monde)

(4) Non, Monsieur, dit - elle en parlant bas, le massacre de

no mister-sg say-PRS-3SG 3SG in speak-PTCP low-ADJ ART massacre-sg of

ce jour n' est pas un hasard...

that day-SG NEG COP-PRS-3SG NEG ART accident-SG

「いや、そうじゃない。彼女は低い声で話しながら言う。あの日の虐殺は偶然ではないのですよ…。」

(Le Monde)

(5) et puis bon on finit par parler tous pareil(...)

and then one finish-PRS-3SG by speak-INF all-ADV alike-ADJ

「それで、みんな最終的には同じような話し方をするんだよ。」(CorpAix)

(6) et puis puis bon c' est vrai que de temps en temps

and then it COP-PRS-3SG true-ADJ that sometimes-ADV

quand tu veux parler un peu sérieux ben tu parles

when 2SG want-PRS-2SG speak-INF a little-ADV serious-ADJ 2SG speak-PRS-2SG

un peu comme comme un lan- un langage de Jacques Chirac (...)

a little-ADV like ART language-SG of

「それでそれで、時々少し真剣に話そうとすると本当に少しジャック・シラクの話し方みたいにな  
るんだよ。」(CorpAix)

## 5. 結論

上にも述べたが、本研究で明らかにしたい点は〔1〕書きことばよりも話しことばの方が副詞的形容詞の出現頻度が高いか否かという点と〔2〕話しことばにのみ現れる語彙は見られるかという点の2点であった。

前者に関しては、Hummel et Gazdik(2014)が副詞的形容詞は口語的な伝統と結びついていると言及していることから、話しことばのコーパスの方が頻度が高いのではないかと予測した。しかしながらカイ二乗検定を用いた分析結果から、今回の調査を行った限りにおいては、フランス語で副詞的形容

詞が使用される頻度は話しことばよりも書きことばの方が高いと言える。しかしながら動詞 *parler* に関しては副詞的形容詞の出現数が極端に少ないことや、文体が新聞としては特徴的であることから、その限りではない可能性もある。以上の点を踏まえ少なくとも動詞 *coûter*、*payer* に後置される副詞的形容詞に限っては、「口語的」ではなく書きことばの規範にも取り込まれていると考えることができるだろう。また、話しことばに特有の副詞的形容詞の語彙が見られるかという点については、動詞 *parler* において形容詞 *pareil* (同じように) や *sérieux* (真剣に) の出現が見られた。

本研究では関(2017)でも分析に使用した動詞を基に、使用する2つのコーパスで副詞的形容詞が出現する動詞を選びコーパス駆動型の分析を行ったが、副詞的形容詞を後置しうる動詞はこれだけではない。そのことから検索する語彙を増やして分析を行うとより正確な結果を得られるであろう。また今回は紙幅の関係上行わなかったが、語彙ごとにコーパス間の比較を行うことも大きな意味をもつと思われる。さらに今回使用した話しことばコーパスである CorpAix では収録されたテキストが発話された場面を特定することができなかった。同じ話しことばの中でも日常会話と改まったインタビューの間では会話のレジスターが異なり副詞的形容詞の使用にも差異が現れる可能性がある。今後レジスターの観点からの分析を行うには、収録語数も多く発話された場面ごとに検索することができる ESLO コーパス等を用いることがより有用であると思える。

---

<sup>1</sup> Noailly (1999) において、現代フランス語では性数の一致を伴いながら名詞を限定する語を形容詞と伝統的に呼んできたことが言及されている。

<sup>2</sup> Noailly(1994)によれば、「動詞+形容詞」構文に現れる不変化の形容詞はその機能により二つに分類することができる。一つは本研究で扱う副詞的形容詞 (*adjectif adverbial*) であるが、もう一方は目的語形容詞 (*adjectif adverbial*) と呼べるものである。これは «*Ils parlent français.*» という文における *français* のような他動詞が必要とする目的語の役割を果たしていると解釈できる形容詞である。先行研究ではこれらの語を形容詞として扱うものも目立つが、筆者はむしろこれらの語は無冠詞の名詞と見做すほうが適当なのではないかと考える。

<sup>3</sup> Abeillé et Godard(2004)は、複合時制における助動詞と過去分詞の間、不定詞の左側といった副詞が通常出現しうる位置に出現できないという点や、*c'est...que* の構文によって左方転移できるか否かといった統語テストの結果の差を踏まえて不変化形容詞は副詞ではなく副詞的な形容詞として扱うべきであると述べている。

<sup>4</sup> *table32NM* や *table39* については <http://infolingu.univ-mlv.fr> を参照。このデータベースは形容詞を後置しうる動詞のデータベースであるが、後置される形容詞が不変化であるか否かは考慮されておらず、本研究では対象としていない主語や目的語の性数に一致し二次的陳述 (*Prédication seconde*) の役割を果たす形容詞を後置する動詞も多く含んでいる。

<sup>5</sup> 本研究では副詞的形容詞の出現頻度に関してコーパス間の差を見てゆくが、まずコーパス間で頻度

---

に差がないとする仮説（帰無仮説）を立て、期待値を計算する。その上で、期待値と実測値の差の大きさを評価するための検定統計量を計算。計算で得られた統計量が基準値以上であれば、帰無仮説が棄却され、「有意差がある」という対立仮説を採択する。この際の統計量の計算方法として本研究ではカイ二乗検定を採用する。詳細は石川ほか（2010）pp.55-84を参照。

<sup>6</sup> 言語学においては一般的に p 値が 0.05 以下であるときに有意差があると判断される。この点についても詳細は石川ほか（2010）pp.55-84を参照。

#### 参考文献

- Abeillé, Anne et Godard, Danièle, 2004, Les adjectifs invariables comme compléments légers en français, *L'adjectif en français et à travers les langues*, PUC, pp. 209-224.
- Abeillé, Anne et Mouret, François, 2010, Les compléments adjectivaux des verbes transitifs en français, *Les Tables, La grammaire du français par le menu, Mélanges en hommage à Christian Leclère*, Cahier du Cental, Presses universitaires de Louvain.
- Blanche-Benveniste, Claire, Rouget, Christine et Sabio, Frédéric, 2002, *Choix de textes de français parlé, 36 extraits*, Honoré champion.
- Guimier, Claude et Oueslati, Lassaad, 2006, Le degré de figement des constructions « verbe + adjectif invarié », *Composition syntaxique et figement lexical*, PUC, pp.17-pp.37.
- Grundt, Lars Otto, 1972, *Études sur l'adjectif invarié en français*, Bergen usw.
- Hummel, Martin, 2017, La structure “verbe + adjectif”, *Parler vrai, dire juste, faire simple et compagnie, Revue Romane, Langue et littérature, International Journal of Romance Languages and Literatures*, John Benjamins Publishing Company.
- Hummel, Martin et Gazdik, Anna, 2014, Le Dictionnaire historique de l'adjectif-adverbe : de aimer haut à baiser utile, *SHS Web of Conferences*, 8, EDP Sciences, pp. 587-603.
- Noailly, Michèle, 1994, Adjectif adverbial et transitivité, *Cahier de grammaire*, 19, pp. 103-114.
- Noailly, Michèle, 1999, *L'adjectif en français*, OPHRYS.
- Nøjgaard, Morten, 1992-1995, *Les adverbes français : essai de description fonctionnelle*, Det Kongelige Danske Videnskabernes Selskab.
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠（編）（2010）『言語研究のための統計入門』、くろしお出版。
- 関敦彦（2017）「現代フランス語において動詞に後置される形容詞」『言語・地域文化研究』23、東京外国語大学大学院、pp.197-210。